

①手賀沼でみられる主な魚

みられた魚にチェックをいれよう！



コイ科
全長8cm
手賀沼産



コイ科
全長25cm
手賀沼産



コイ科
全長10cm
国内移入
(琵琶湖)



コイ科
全長10cm
国内移入
(琵琶湖)



コイ科
全長6~8cm
外来種
(中国)



メダカ科
全長3cm
手賀沼産



ハゼ科
全長15cm
手賀沼産



ハゼ科
全長7cm
手賀沼産



カダヤシ科
全長3cm
外来種
(中米)



ドジョウ科
全長12cm
手賀沼産

②メダカとカダヤシ



メダカ♂



カダヤシ♂

メダカ科 全長3cm 卵生

カダヤシ科 全長3cm 卵胎生

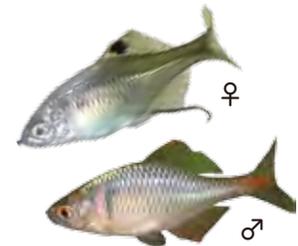
カダヤシは中米原産の魚で、ボウフラの駆除を目的に日本に移入されました。在来種のメダカと生息環境が似ている魚です。近年、メダカは水田の圃場化(ほじょうか)や外来種との競争などにより減少しています。

③二枚貝とタナゴの共生関係

幼生が寄生し
栄養をもらう



ドブガイ



タイリクバラタナゴ

貝に産卵して
孵化させる

タイリクバラタナゴは、メスが長く伸びた産卵管を使って二枚貝の排水管に産卵し、オスが入水管に放精することで貝の体内で受精します。その後、二枚貝のエラで、新鮮な水をもらいながら孵化した稚魚は水中に出ます。

一方、ドブガイなどの二枚貝は、メス貝の体内で孵化した幼生が、タナゴのヒレに寄生し、養分を吸収しながら変態し、稚貝になります。